

8月28日 エフェソの信徒への手紙4章17～32節 今日の説教から

説教題：「新しい人間」

今日の聖書箇所では、パウロが「異邦人のように歩んではいけません」と、強い口調で忠告をしています。異邦人は愚かな考えに従っている、無知で心が頑なになっている、自分勝手な生活をしていて、決して褒められたものではない生活を送っている、と強い口調で責め立てながら、異邦人のような生活を送ってはいけなさと忠告をしています。

ただ、実際の所パウロは異邦人のことを特別悪く思っているわけではありません。同じエフェソの信徒への手紙の3章では、「異邦人が福音によってキリスト・イエスにおいて、約束されたものをわたしたちと一緒に受け継ぐ者となる」と語るように、むしろ異邦人も自分たちと同じキリスト者となるべき人々であると、好意的な様子を示しています。

全ての異邦人が無知であり、心を頑なにしていたわけではありません。イエス様のことを知り、福音によって信仰へと導かれる人も確かに存在しました。同じように、イスラエルの民であっても無知であったり心が頑なになっていた人もいます。いえ、むしろ自分がイスラエルの民である、選ばれた民であるという信仰を持っていた人ほど、心を頑なにイエス様のことを受け入れることが出来なかったことでしょう。パウロ自身も、かつては熱心なユダヤ人としてイエス様を迫害することに情熱を注いでいました。自分が由緒正しいベニヤミン族という部族であることを誇り、律法を守ることを何よりも大事にしていました。

しかしパウロは、イエス様に出会った後は、それらのものをすべて「価値がないもの」とみなして、ただイエス様の言葉に従うことを求めるようになりました。古い自分を脱ぎ捨てて、イエス様に与えられた「新しい自分」に従って真実を歩むことが出来たのです。だからこそ、パウロはエフェソの信徒への手紙の2章14～20節（裏面参照）で、イエス様の十字架によって神様と人間との間に和解が成立したことを語り、この和解によって、イスラエルの民ではなくても神様の恵みにあずかることが出来るようになったことを知らせるのです。

今日の個所で、パウロは正しく生きることを勧めています。キリスト者として罪が赦された後ですら、「真実を語りなさい」「日が暮れるまで怒ってはいけな」「悪い言葉を一切口にしてはいけな」と、小さな悪も見逃さないように命じています。むしろ、自分の持ち物を困っている人に分け与えて、相手に役立つ言葉を語り、憐みの心をもって誰に対しても接することを求めています。

これらの掟が、しかし律法のように強制ではなく、私たちの自由によって自発的に行われることが求められているのが、最も難しいことなのかもしれません。自分の利益を優先するのではなく、神様の御心を実現することを喜びとする。私たちだけの力では簡単に実現できることではありません。それが自発的にできるように私たちが変えられている、というところに神様の業の大きさを知ることが出来るのです。

洗礼を受けたその時、私たちには父と、子と、聖霊によって確かに神様と結びあわされました。その時下された聖霊によって、私たちの罪の贖いが保証されています。その事実を胡坐をかきことなく、私たちが受けた恵みを私たちの中でとどめておくのではなく、私たちの隣人と、兄弟姉妹と分かち合うことが求められているのです。私たちが赦されたように、私たちが誰かを赦すことが求められています。この豊かな互いの交わりによって、私たちはかつての自分ではなく、新しくされた自分を知ることが出来るのです。

いつも正しく生きることを求められている、いつも正しく生きる事が出来るように強められている、その喜びを胸に、今週一週間の、これからの歩みを共に進めていきましょう。

## 今日の説教箇所：エフェソの信徒への手紙 4章 17～32節

- 17:そこで、わたしは主によって強く勧めます。もはや、異邦人と同じように歩んではなりません。彼らは愚かな考えに従って歩み、知性は暗くなり、彼らの中にある無知とその心のかたくなさのために、神の命から遠く離れています。そして、無感覚になって放縱な生活をし、あらゆるふしだらな行いにふけてとどまるどころを知りません。しかし、あなたがたは、キリストをこのように学んだではありません。キリストについて聞き、キリストに結ばれて教えられ、真理がイエスの内にあるとおりに学んだはずで。だから、以前のような生き方をして情欲に迷わされ、滅びに向かっていく古い人を脱ぎ捨て、心の底から新たにされて、神にかたどって造られた新しい人を身に着け、真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません。
- 25:だから、偽りを捨て、それぞれ隣人に対して真実を語りなさい。わたしたちは、互いに体の一部なのです。怒ることがあっても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで怒ったままでいてはいけません。悪魔にすきを与えてはなりません。盗みを働いていた者は、今からは盗んではいけません。むしろ、労苦して自分の手で正当な収入を得、困っている人々に分け与えるようにしなさい。悪い言葉を一切口にしてはなりません。ただ、聞く人に恵みが与えられるように、その人を造り上げるのに役立つ言葉を、必要に応じて語りなさい。
- 30:神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、聖霊により、贖いの日に対して保証されているのです。無慈悲、憤り、怒り、わめき、そしりなどすべてを、一切の悪意と一緒に捨てなさい。互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい。

## エフェソの信徒への手紙 2章 14～20節

- 14:実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。……従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり、使徒や預言者という土台の上に建てられています。